

大学名： 国立大学法人宮城教育大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	2021年3月申請済の学校法人古川学園古川学園高等学校福島県立会津学鳳中学校・高等学校および10月申請済の宮城県仙台第三高等学校、青森市立東中学校、新潟市立新潟小学校、八戸工業大学第二高等学校・八戸工業大学第二高等学校附属中学校や宮城県東北学院中学高等学校の加盟申請の相談に応じることができた。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	2021年3月申請の学校法人古川学園古川学園高等学校福島県立会津学鳳中学校・高等学校および10月申請の宮城県仙台第三高等学校、青森市立東中学校、新潟市立新潟小学校 八戸工業大学第二高等学校・八戸工業大学第二高等学校附属中学校が申請後、チャレンジ期間にはいっており、それらの学校の相談に応じることができた。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムや、ユネスコスクール東北ブロック大会（当該年度は別名称）を開催して、ESD/SDGsについての学習会や、生徒の研究発表会を開催している。ただし、地域のすべての学校が参加しそれらの学校に支援ができるわけではない。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムや教育委員会、各学校主催の研修会や学校訪問を通して、大学の資源を活用して、資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなどを行うことができた。ただし、すべて要請ベースなので、熱心な地域や学校とそうでない地域や学校がある。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	大学からはESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムが主催する研修会を4回開催した。また、宮城県気仙沼市教育委員会や富谷市のユネスコスクール、福島県会津市のユネスコ協会などと協力して、研修会やワークショップを開催することができた。これらは、すべて要請ベースである。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムとして、大学の協力のもと学校や地域で開発された実践事例や教材を集め、オンラインで公開している。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	東北地方ESD活動支援センターと共同で活動しており、東北地方ESD活動支援センターが主催し、地域のステークホルダーが多く参加する研修会でユネスコスクールの活動について紹介している。ESD/SDGsはユネスコスクールでなくても展開しており、ユネスコスクールに加盟するのはハードルが高いと考えられているので、これらの研修会はユネスコスクールのプロモーションであるとはいえない、
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることが	福島県会津市で行われた研修会では、会津ユネスコ協会が中心となり、学校や地域のステークホルダーを結びつけることができた。

	できた。	
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	熱心に活動している教育委員会とは連携が継続している。東北地方 ESD 活動支援センターのご協力のもと、青森大学 SDGs 研究センターや岩手県立大学とともに活動する場面はあるが、連携を促進できたとは言えない。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	ESD World Conference: 18 May, Market Place “Holistic ESD:SDG4.7 projects in Asia-Pacific”で ESDxASPnet - Japan の事例を発表し、ユネスコスクールの存在や意義について報告発表した。国内外の多様なステークホルダーに広く知らせることができたとはいえない。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	パリユネスコ本部の主催する Teacher Education & Training Institutions for Global Citizenship Education and Sustainable Development, Change Initiative に参加し、ベルギー、ノルウェー、フィリピンのユネスコスクールと協働で活動することができた。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	UNESCO Associated Schools Network, Collaborative Action Research on the Role of Schools in Achieving SDGs in Asia-Pacific に参加し、タイ、ベトナムの学校と気仙沼市の学校との国際交流を 4 回マネジメントした。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ユネスコスクール全国大会の午前中のシンポジウムを大学で開催したことが、ユネスコスクールの活動についての理解を広める機会となった。大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができたとはいえない。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	学部必修科目「環境・防災教育」、「総合的な学習の時間の指導法」選択科目「国際理解教育概論」「多文化教育総合演習」教職大学院専門高度化基盤科目「地域協働と学校づくり」選択科目「グローバル教育課題」などで、ユネスコスクールの研究成果を取り込みながら、ESD/SDGs について教育を行っている。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) の主催する「変容を捉え、変容につながる評価のモデル ～SDGs 時代を生きる学校教員からの提案～」に参加させていただいたことは、教育評価に関する調査研究活動に参加したといえる。
	4. 自由記述	